

evo SP8

8 Channel Smart Preamp with AD/DA



User Manual V1

WELCOME

新しいEVO SP8スマートプリアンプへようこそ。

EVO SP8は、オーディオやレコーディング分野のテクニカルなバリアに煩わされることなく、誰にでもわかりやすく、すぐ制作に没頭できるようにデザインいたしました。

EVO SP8は、革新的なSmartgain (スマートゲイン) テクノロジーを備えた8つの高性能なEVOマイクプリアンプ、2つのJFET楽器入力、加えて高性能コンバーターを採用しています。

EVO SP8を使いこなして、あなただけのクリエイティブな試みをお楽しみください。

Work smarter not harder.



EVO makes recording easy

01 適合規格

02 インストール/セットアップ

03 ARCの登録方法

04 ハードウェアの特徴

主な特徴

マイクプリとラインレベル入力

スマートゲイン・モード

EVO 16接続時のスマートゲイン

オプティカル入出力

ワードクロック入力

メータリング

パワー

クロック設定

ファクトリーリセット

05 EVOと複数のデバイスを接続する

06 EVO SP8をラックマウントする

07 ファームウェアのアップデート

08 スペシフィケーション

09 安全上のご注意

10 品質保証に関して

適合規格に関して



この製品は、FCC規制のPart 15 (注:FCC規制はアメリカ合衆国内の規格です。)に従ってテスト済みで、クラス Aのデジタルデバイス基準に準拠しています。この規制は、住宅へ設置することで発生する有害な干渉から守るために決められています。

この製品は、無線高周波エネルギーを生成、使用、および放射する可能性があり、指示に従って設置および使用しない場合、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。

製品がラジオやテレビの受信に有害な干渉を引き起こしている場合、次のいずれかの方法で干渉を防ぐことを推奨します。*干渉の有無はデバイスの電源ON/OFFでご確認できます。

01 受信アンテナの向きや位置を変える。

02 デバイスと受信機の距離を離す。

03 受信機が接続されている回路とは別の回路のコンセントにデバイスを接続する。

04 販売店または経験豊富なラジオ/テレビ技術者に相談する。



We, EVO Audient, Aspect House, Herriard, Hampshire, RG25 2PN, UK, 01256 381944, declare under our sole responsibility that the product EVO SP8 complies with Part 15 of FCC Rules.

Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference,
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation



We, EVO Audient, declare that the product, the EVO SP8, to which this declaration relates, is in material conformity with the appropriate CE standards and directives for an audio product designed for consumer use.



We, EVO Audient, declare that the product, the EVO SP8, to which this declaration relates, is in material conformity with the appropriate UKCA standards and directives for an audio product designed for consumer use.



Audient Ltd has conformed where applicable, to the European Union's Directive EN 63000:2018 on Restrictions of Hazardous Substances (RoHS) as well as the following sections of California law which refer to RoHS, namely sections 25214.10, 25214.10.2, and 58012, Health and Safety Code; Section 42475.2, Public Resources



Under an environment with electrostatic discharge, the device may cease to output sound (EUT could not operate properly). This requires the user reset the device by unplugging & re-connecting to host computer.

As a device that provides power to other equipment power management features are inappropriate for this product.



We, EVO Audient, declare that the product, the EVO SP8, to which this declaration relates, is in material conformity with the appropriate PSE standards and directives for an audio product designed for consumer use. METI Ordinance Appendix 12 J55032(H29).



IEC 62368 Test Report with Japan deviation.

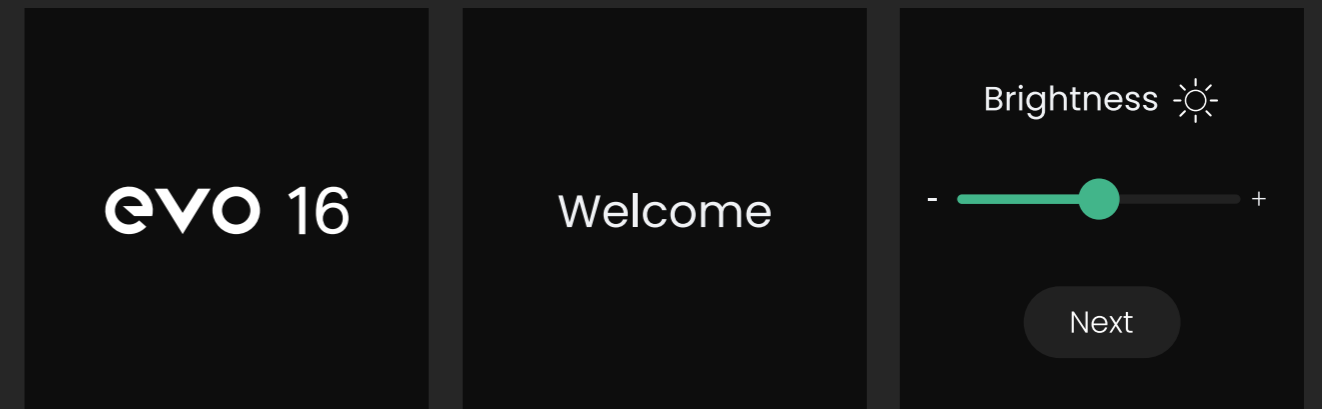
インストール/セットアップ

同梱されている電源ケーブルを使用して、EVO SP8をコンセントに接続します。
EVO SP8をホストインターフェイスに接続する方法の詳細については、このマニュアルの「クロック・コンフィギュレーション (P.28)」をお読みください。

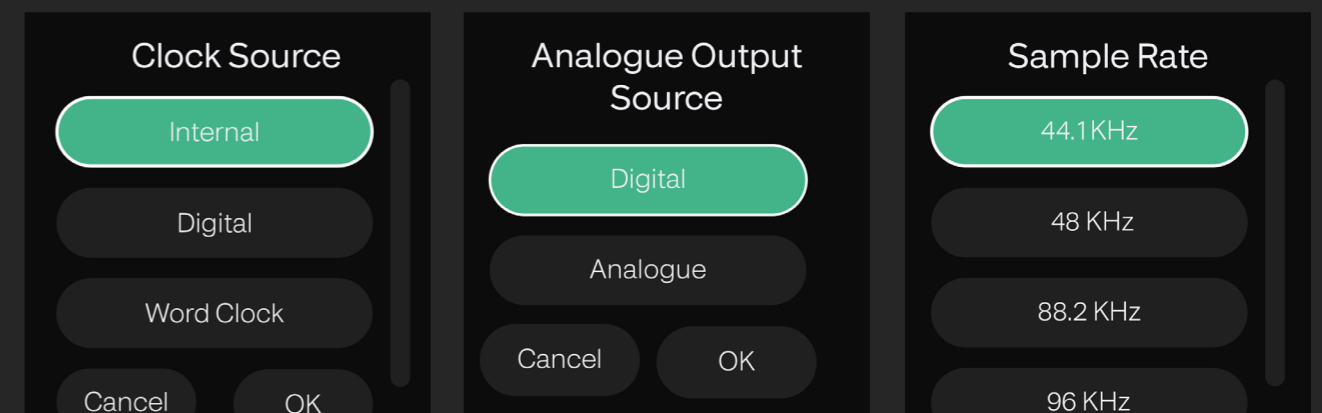
初期設定

電源を入れると手順に沿ってあなたの好みにセットアップできるよう誘導してくれます。

初めに、本機のLEDやリングの明るさをスタジオ環境に合わせて調整できます。
コントロールホイールで調整し、設定を保存して「Next」に進みます。



次に、初期のクロックソース、サンプルレート、およびアナログ出力ソースを選択します。



これらの設定は必要に応じてセットアップメニューからいつでも変更できます。

AUDIENT ARCの登録方法

ARC

すべての主要なオーディオ ソフトウェアと互換性があるEVO SP8には、プロフェッショナルなソフトウェアとサービスのコレクションがバンドルされており、レコーディングを開始するために必要なものがすべて揃っています。

arc.audient.comにアクセスして、お使いのデバイスを登録します。

次に、「Register your product (製品を登録する)」を選択し、詳細を入力してアカウントを作成します。

登録が完了すると確認メールが届きます。(届かない場合はspamや他のフォルダも確認してください。) アカウントが認証されたら、シリアルナンバーと本体の下部にある4桁のPINコードを入力してEVO SP8の登録を行います。

【 製品の登録ページ 】

- Name=名前
- Email=メールアドレス
- Password=パスワード
- Password confirmation=パスワード (再入力)
- Product=登録する製品名を選択
- Serial number=シリアル番号/EVO SP8のシリアルナンバーと4デジットPINが本体の底に貼られています。

登録したメールアドレスに、「Audient ARC - Email Verification」との認証メールが送られてきます。メール内の「Verify Email」またはリンクをクリックすると、アカウントが認証されます。

ARCの登録が完了すると、各々のパワフルなツールの登録画面に移動できます。

注意:

- 日本語ページはございません。
- 入手/使用開始にはアプリ各社のユーザー登録が必要です。
- 全てのプレゼント製品の内容 (インストールや使用方法) に関しては、弊社のサポート対象ではありません。ご了承ください。

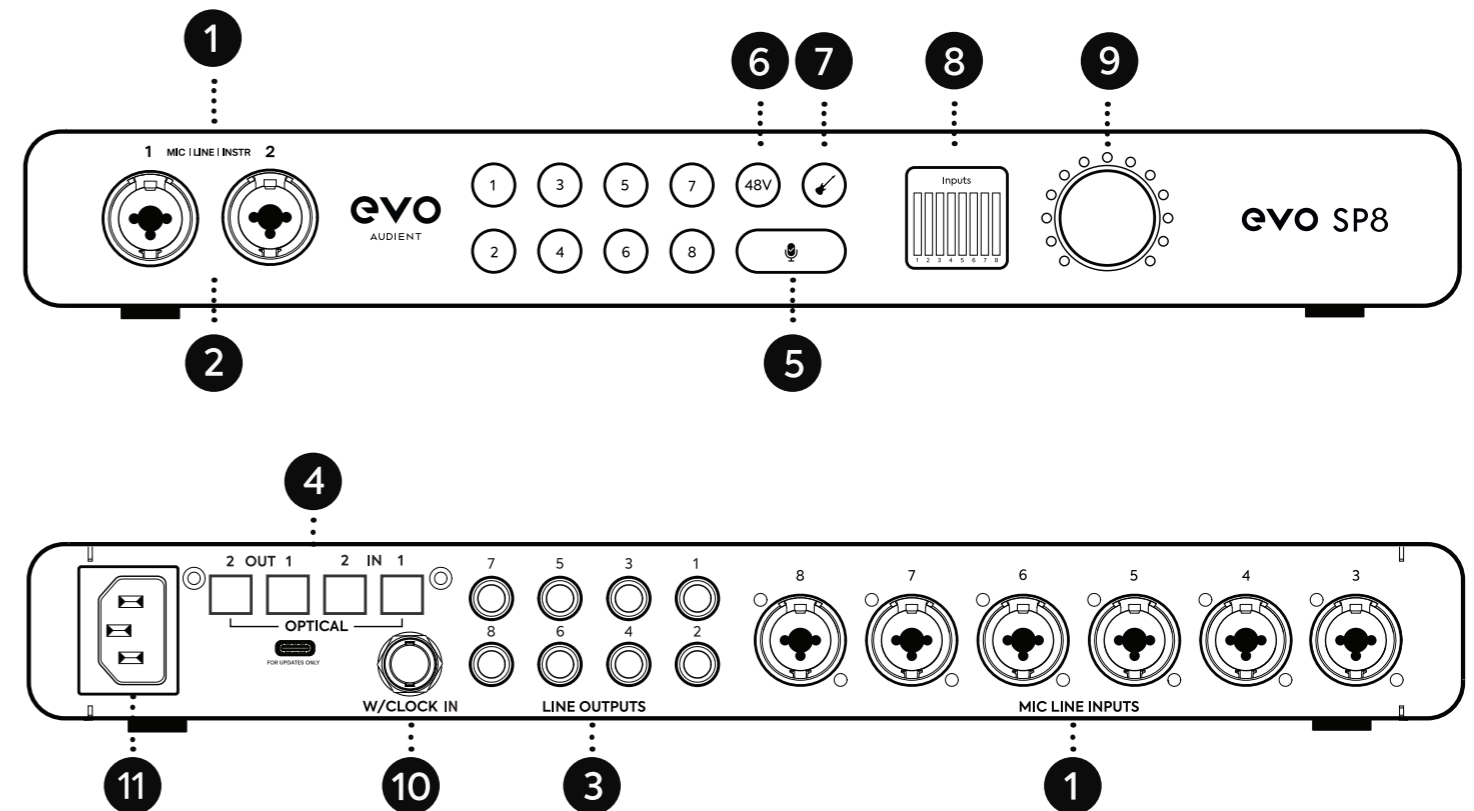
REGISTRATION



REGISTRATION

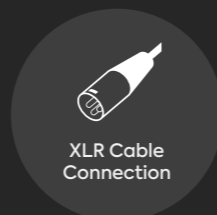
HARDWARE FEATURES

- ① 8 X EVOマイクプリアンプ
- ② 2 X JFET 楽器入力
- ③ 8 X ライン出力
- ④ 2 X デジタルI/O
- ⑤ スマートゲイン機能
- ⑥ ファンタム電源
- ⑦ インストルメント入力ボタン
- ⑧ 高輝度LCDスクリーン
- ⑨ コントロールホイール
- ⑩ ワードクロック入力
- ⑪ パワーサプライ

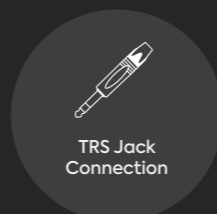


マイクプリとラインレベル入力

EVO SP8は8系統の高品質EVOマイクプリを備えており、ユニットの前面と背面にあるコンボジャックからアクセスできます。



マイクとの接続には、3ピン XLRケーブルを使用します。

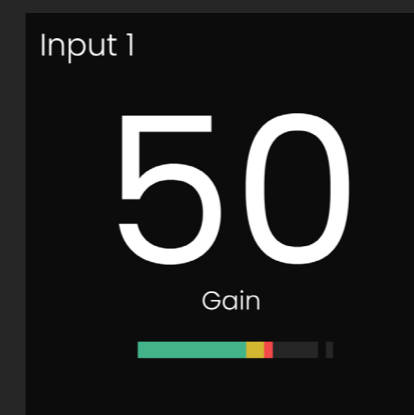


ラインレベルデバイスとの接続には、コンボジャックのセンターにある1/4インチ TRSジャックを使用します。ライン入力は自動的に信号レベルをわずかに下げて、入力段のオーバーロードによる歪みの発生を抑えます。

EVO SP8のプリアンプは、レコーディングに最も適したレベルを設定できるように、入力信号を8dBカット～50dBブーストすることができます。

入力ボタンのいずれかを押した後に、コントロールホイールを調整して、ゲインを手動でコントロールできます。画面にはゲインレベルがデシベル表示されます。

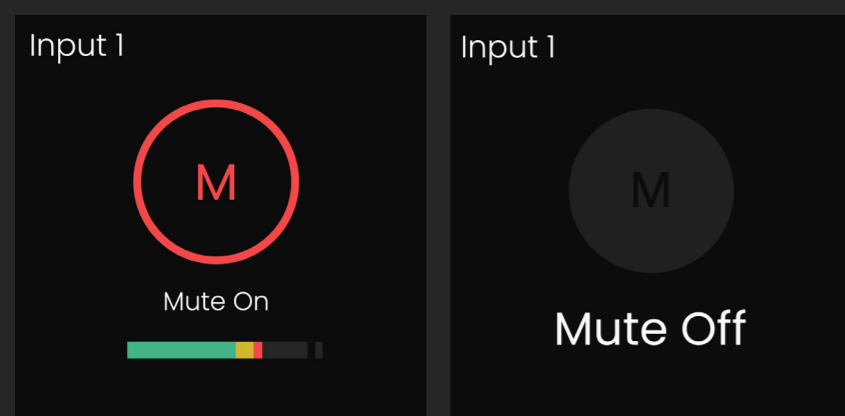
EVO SP8のフロントパネルにある入力ボタンを押すと、入力のステータス・スクリーンが表示されます。入力ナンバー、EVO ソフトウェアミキサーで決めたチャンネル名、dB 表示のゲインセッティング、チャンネルレベルメーターが、このステータス・スクリーンに表示されます。



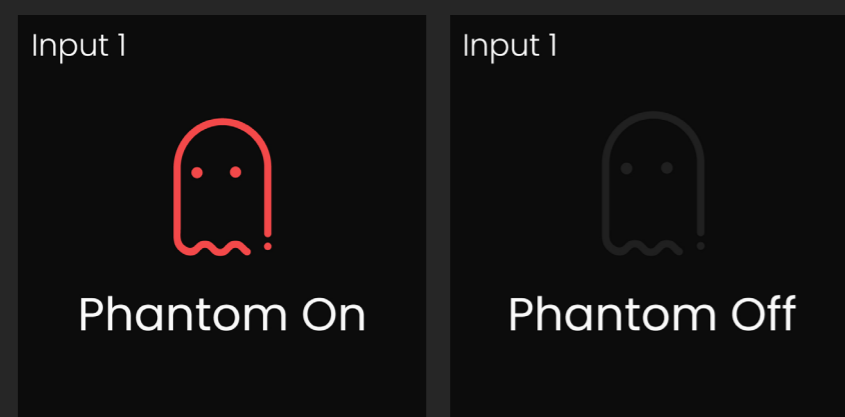
入力を選択すると、コントロールホイールを使って本機でチャンネルゲイン調整、チャンネルミュート、ファンタム電源、ギター&ベースの1+2チャンネルがコントロールできます。

チャンネルボタンを長押しすると、ミュート機能が働きチャンネルがミュートされます。表示は図のように自動的に切り替わり、チャンネルボタンが点滅を始めます。

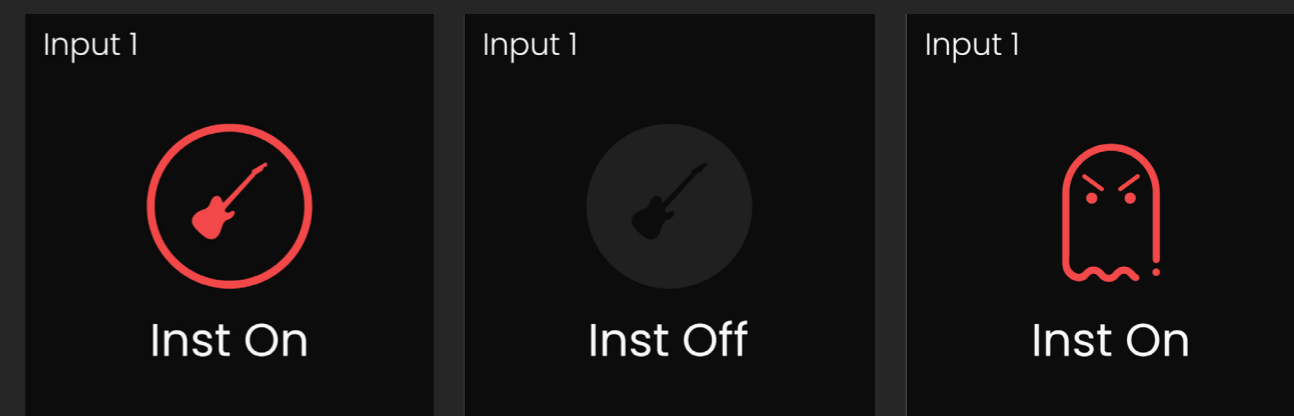
チャンネルがミュートされると、ゲインレベルはミュートアイコンに切り替わります。このミュートを解除するにはチャンネルボタンを再び長押しします。



ファンタム電源を有効にするには、チャンネルを選択してから48Vボタンを押します。ファンタム電源がONのチャンネルは48Vボタンが赤く点灯し、一時的にトグルスクリーンが表示されます。ファンタム電源はチャンネル毎にオン/オフできます。ファンタム電源が使われていないチャンネルの48Vボタンは点灯しません。48Vをオフにし、改めてボタンを押すとトグルスクリーンが表示されます。



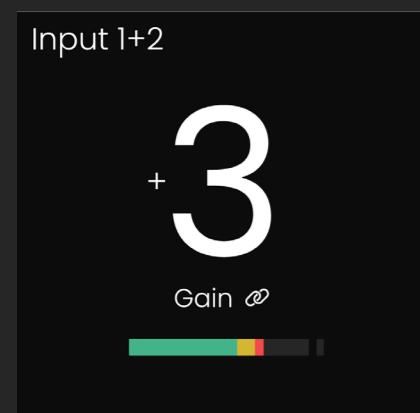
チャンネル1+2は、インストゥルメントモードに切り替えて、ギターやベースの録音に使用できます。設定するには、チャンネル1または2を選択し、インストゥルメントボタンを押します。ボタンが点灯し、一時的にポップアップスクリーンが表示されます。再度インストゥルメントボタンを押すと、インストゥルメントモードが解除され、トグルスクリーンが表示されます。



インストゥルメント入力アクティブ状態のチャンネル1+2のファンタム電源をオンにしようとした場合、両方を使用することはできないため、エラー画面が表示されます。

注意：インストゥルメント入力を介してのレコーディングが終了した後は、マイクとラインレベルの入力に戻しましょう。その設定は、使用したインストゥルメントチャンネルボタンを押し、再度インストゥルメントボタンを押します。これでDI回路がオフになり、マイクとラインレベル入力として使用できます。

EVO SP8のチャンネルはステレオリンクが可能です。チャンネルがリンクされると両入力のゲインを同レベルにマッチできます。チャンネルは順番にペアリングされ、チャンネル1にチャンネル2をリンク、さらにチャンネル3、チャンネル4とリンクできます。2つのチャンネルがリンクされている場合、「Link」アイコンが入力ステータス画面に表示され、入力名が「Input 1+2」などに更新されます。

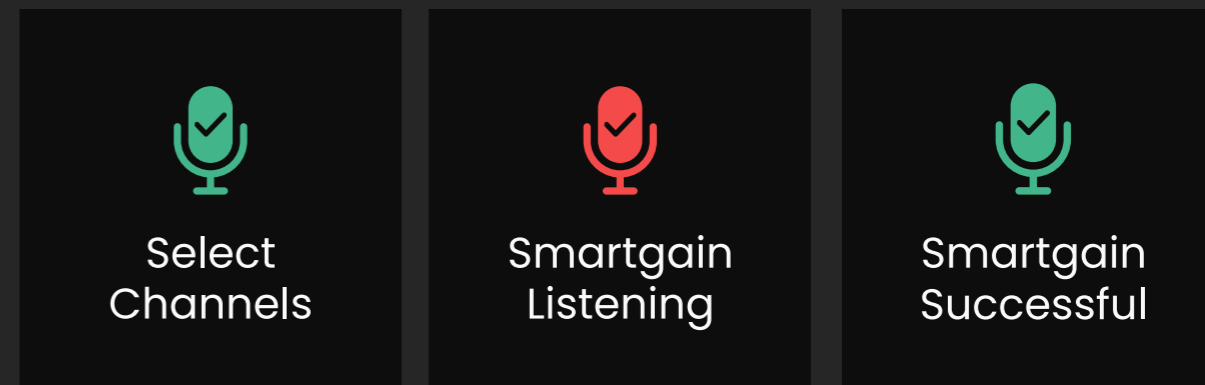


入力メーター画面では、リンクされたチャンネル番号をつなぐ小さなハイフンも表示されます。

スマートゲイン機能

スマートゲインは、1つまたは複数のチャンネルのゲインを自動で最適なレベルに調整してくれる機能です。

この機能を使用するには、まず、Smartgainボタンを押し、次に設定したいチャンネルを選びます。設定するには、任意のチャンネルボタンを押し、Smartgainボタンを長押しして全8チャンネルを選択するか、2つの方法が選べます。

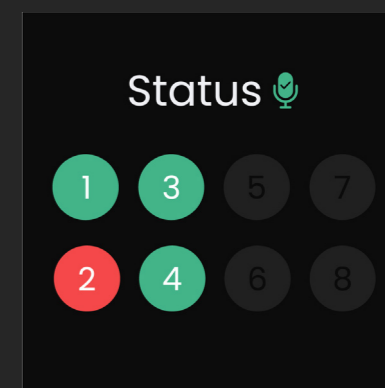


チャンネルを選択してから Smartgainボタンを再度押すと、Smartgain Listening スクリーンに変わります。この状態で信号が入力されるとSmartgainが入力信号の解析を始めます。

選択した全チャンネルのゲイン設定が無事成功すると、「Smartgain Successful」のメッセージがスクリーンに表示され、レコーディングがスタートできます。

何らかの理由でスマートゲインが正常動作しない時は、「Issue Detected」スクリーンが表示されます。図のように各チャンネルのステータスも表示されます。

グリーン - 成功
レッド - 失敗
グレイ - 選択されていないチャンネル



Smartgainに失敗すると、「Select Channels」画面に戻ります。チャンネルはすでに選択されているので、Smartgainボタンを押すだけで再試行できます。

その際、マイクケーブル、ファンタム電源、マイクポジション等も再度チェックして下さい。その後、再試行することをお勧めします。

Note: グリーンのチャンネルは設定が成功しているため、再試行の必要はありません。

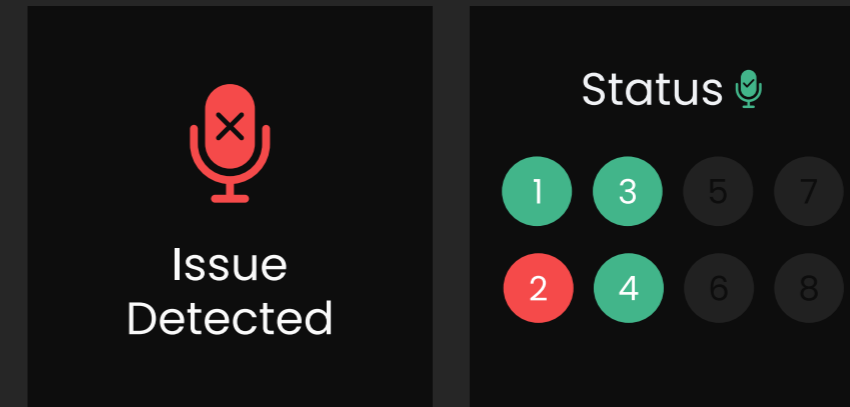
重要ポイント: 複数のチャンネルでSmartgainを使用する場合は、リスニングモードの際に、セットした全てのマイクについて確認してください。例えば、ドラムキットをマイキングの際、ドラマーがリスニング中にタムも叩いているかどうか確認してください。必要な音がすべて鳴っていない状態でリスニング測定が終了すると、ドラムキット全体のゲインが正しく設定されず、録音に影響を与える可能性があります。

EVO 16接続時のスマートゲイン

EVO 16に1つ、または2つのEVO SP8を接続する場合、接続されたすべてのEVOデバイスでSmartgainが同時に使用できます。

任意のEVO SP8またはEVO 16でSmartgainボタンを押すと、すべてのデバイスでSmartgainが有効になります。その際、3つのデバイスで最大24チャンネルまで同時に選択できます。Smartgainボタンをもう一度押すとリスニングモードに入り、一度に最大24チャンネルのゲインが自動で最適なレベルに設定されます。

リスニングが終了すると、すべてのEVOユニットは8つのチャンネルのステータスを表示します。いずれかのデバイスでどれかのチャンネルが失敗した場合、このチャンネルは赤い円で表示されるので、その特定デバイスでマイクの接続を確認してからSmartgainを再試行します。



ライン出力

EVO SP8は、ユニットの背面に8系統の専用ライン出力を備えています。搭載された8系統のEVOプリアンプ (アナログ) から、またはセットアップメニューの「Output Source」を設定してADAT入力 (デジタル) から出力することができます。

「Analogue」に設定するとプリアンプ1は出力1へ、プリアンプ2は出力2へと順に出力されます。

「Digital」に設定すると、ADAT入力1はライン出力1へ、ADAT入力2はライン出力2へ順に出力されます。

デジタル入出力

EVO SP8は、ADAT接続できる2系統のオプティカル入出力を備えています。



これにより、オーディオをプリアンプからホストインターフェイスに送信したり、最大8チャンネルからオーディオを受信したり、あるいはアナログライン出力経由でこれを送信したりできます。

44.1kHzおよび48kHzのサンプルレートでは、8チャンネルすべてに対して1つのオプティカルポートを使用し、2つ目のポートは単に平行出力として機能します。88.2および96kHzの場合は、8チャンネルすべてにアクセスするには、2つのオプティカルポートを使用する必要があります。これは、サンプルレートが高くなると1ポートあたり半分の4チャンネルに制限されるためです。

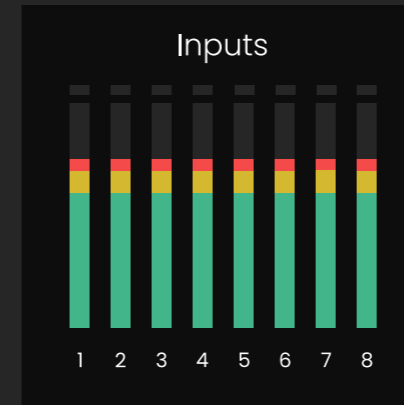
ワードクロック入力

EVO SP8には他のデジタルデバイスのクロックを同期するために、BNC入力端子を装備しています。インターフェイスのセットアップメニューから、EVO SP8のワードクロック入力の使用を設定できます。

ワードクロック入力は、切り替え可能な75Ωターミネーションもセットアップメニューから有効にできます。75Ωターミネーションについての詳細は「クロック・コンフィギュレーション (P.28)」セクションを参照してください。

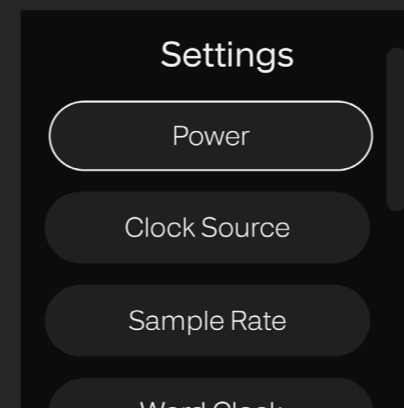
メータリング

コントロールホイールを押すと、8つのプリアンプとデジタル入力チャンネルメーターを切り替えることができ、すべてのレベルをすばやく確認できます。



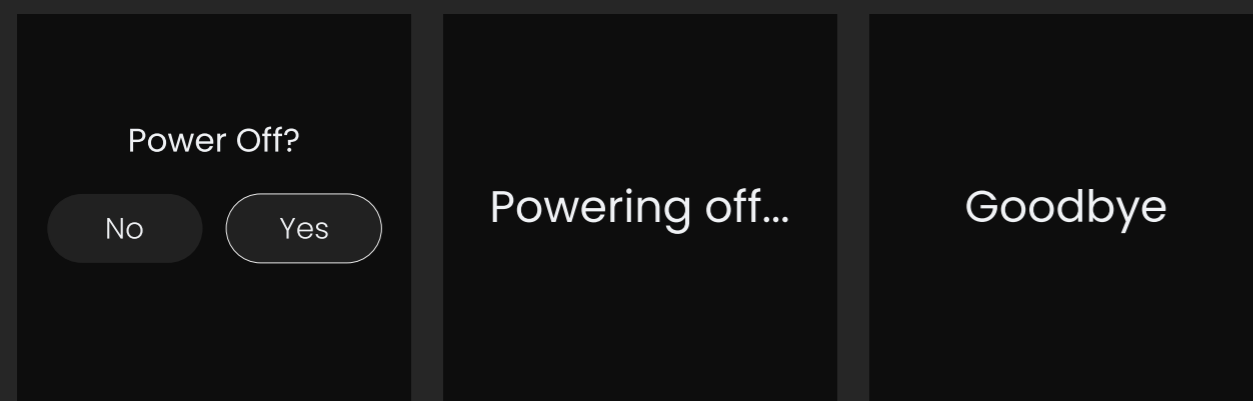
セットアップメニュー

コントロールホイールを長押しすると、さまざまなパラメーターを調整できるセットアップメニューが開きます。

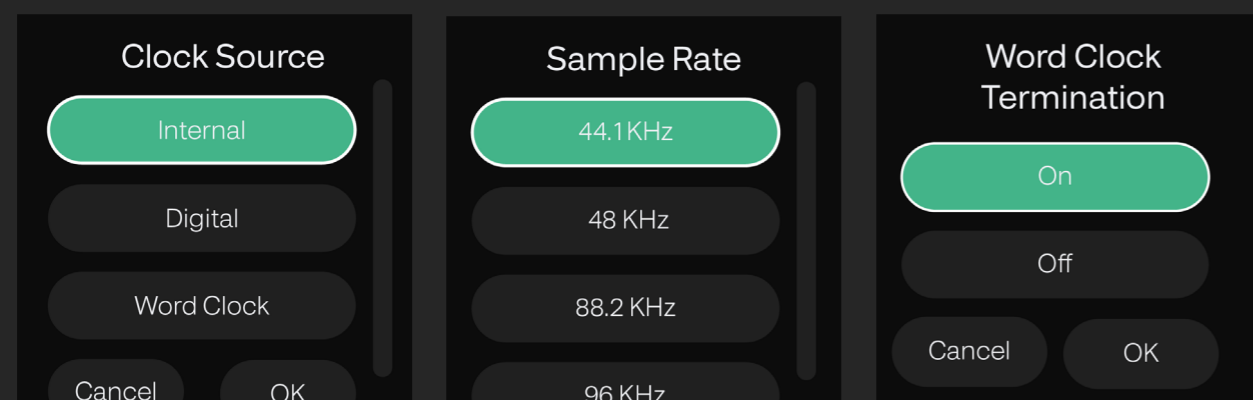


パワー

EVO SP8の電源をオフにする機能です。Powerが表示されるまでコントロールホイールを回してから、押します。電源をオフにするには「Yes」を選び、コントロールホイールで確認します。



この機能はEVO SP8をスタンバイの状態（低電源消費セッティング）にします。スクリーンが点灯するまでコントロールホイールを長押しすると、スタンバイからオンに戻ります。コントロールホイールの5秒間長押しでも、同じように電源をオフにすることができます。



クロックソース

EVO SP8がどのソースのクロックを受けるかをコントロールします。

「Internal」は内部クロック、「Digital」はユニットがオプティカル入力から受けるADATデータからクロックを受け、「Word Clock」はBNCワードクロック入力からクロックをクロックソースとして受けます。

サンプルレート

ここでは、デバイスを動作させるサンプルレートが選択できます。

外部クロックソース（デジタルまたはワードクロック）を使用している際に、「AUTO」に設定するとサンプルレートが自動的に合致するように調整されます。

ワードクロック

ワードクロック入力をターミネートするかどうかを選択できます。

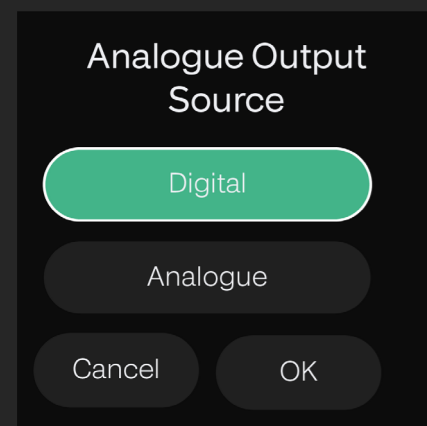
EVO SP8がワードクロックチェーン最後のデバイスである場合は、「Word Clock Termination」をオンにする必要があります。

BNC Tコネクタを使用してクロックオンを別のデバイスに送信する場合は、ターミネートをオフに設定します。「Word Clock Termination」が正しく実行されないと、デバイスが正しく同期されなくなる可能性がありますのでご注意ください。

アウトプットソース

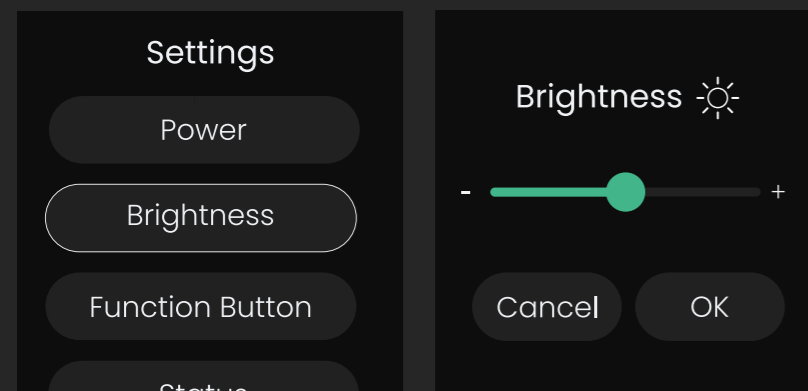
ここではEVO SP8の8ライン出力に送信される信号が変更できます。

「Digital」に設定すると、8つのADAT入力チャンネルが8ライン出力に送られ、EVO SP8を8チャンネルDAコンバーターとして使用できます。また、「Analogue」設定は8つのリアンプの出力を直接ライン出力に送り、EVO SP8をスタンドアロンマイクプリとして使用できるようにします。



ブライツネス

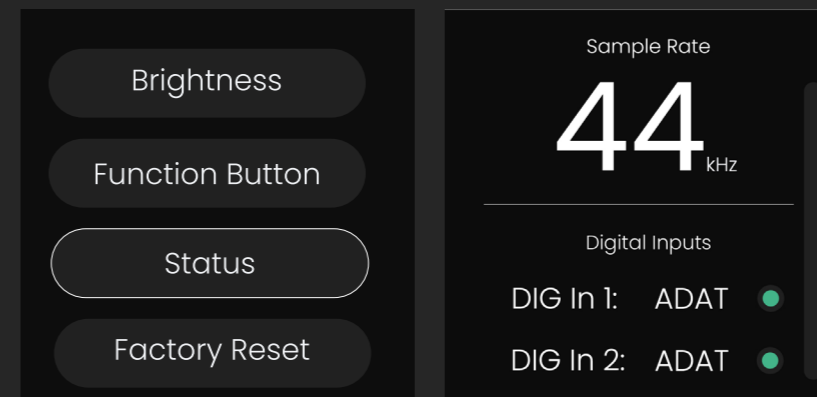
EVO SP8のフロントパネルのLEDの明るさを、スタジオの照明設定に合わせて調整できます。



ステータス

ステータス・スクリーンには現サンプルレート、デジタル入力のプロトコル、クロック同期が表示されます。

グリーンの表示はクロック同期が成功したことを示します。

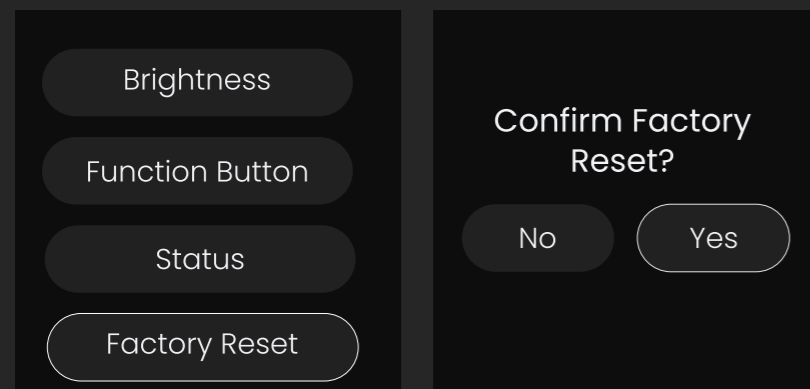


アンバーはクロック信号を受けているものの、サンプルレートが異なることを表示しています。SP8のサンプルレートを変更するか、外部クロックを合致させてください。

レッドは正しいクロック信号を受けていない状態を表します。接続を再確認し、必要に応じて別のケーブルで接続をやり直してください。

ファクトリーリセット

ユニットをデフォルトの状態にリセットし、すべての設定が削除されます。
この操作は取り消すことができませんので、実行には十分ご注意ください。



クロック・コンフィギュレーション

外部デジタルデバイスとADAT接続する際は、それら全てのクロックが同期状態にあることが重要です。デバイスの同期プロセスは「クロッキング」と呼ばれます。

そのために1台をプライマリークロック（クロックマスター）に設定する必要があります。プライマリークロックに設定するのは必ず1台のみで、その他のデバイスはレプリカ（スレーブ）として同期します。セットアップでは、複数のプライマリーデバイスがあると、デバイス同士が同期しなくなりレコーディングする信号に歪みが生じます。

プライマリーデバイスは非常に高速なクロック信号を断続的に送信して、レプリカデバイスがそれを受けます。この信号は、EVO SP8のBNCワードクロック入力などのクロック専用の接続を介して送信するか、ADAT接続にてオーディオデータ上で送信することもできます。

マスタークロックデバイスを選択する

通常、プライマリークロックとして最も適しているのは、オーディオインターフェイスのようにコンピューターに直接接続されているデバイスです。このクロックは、ADAT出力またはBNCワードクロック出力のいずれかを使用して、システム中の他のデバイスへ送信できます。この主な利点としては、コンピューター上のサンプルレートの変更が自動的にセットアップ中の他のデバイスに送信され、すべてが同期されたままになるためです。

また、その代わりにEVO SP8をプライマリークロックとして使用することもできます。これにより、ADAT出力を介してクロックが他のデバイスに送信されます。これは簡単なセットアップ（例 EVO SP8とEVO 16それぞれ1台ずつ使用…等）のみで実行できますが、より多くのデバイスをセットする場合は、BNCワードクロック接続を利用するのが最善策でしょう。

サンプルレートごとのチャンネル数

44.1および48kHzのサンプルレートでは、それぞれオプティカル接続で8つのADATチャンネルが使用可能です。サンプルレートを88.2kHzまたは96kHzに上げると、ADATプロトコルの動作により半分の4チャンネルに制限されます。これらの高いサンプルレートで8チャンネルすべてにアクセスするには、接続ごとに2本のTOSlinkケーブルが必要になります。

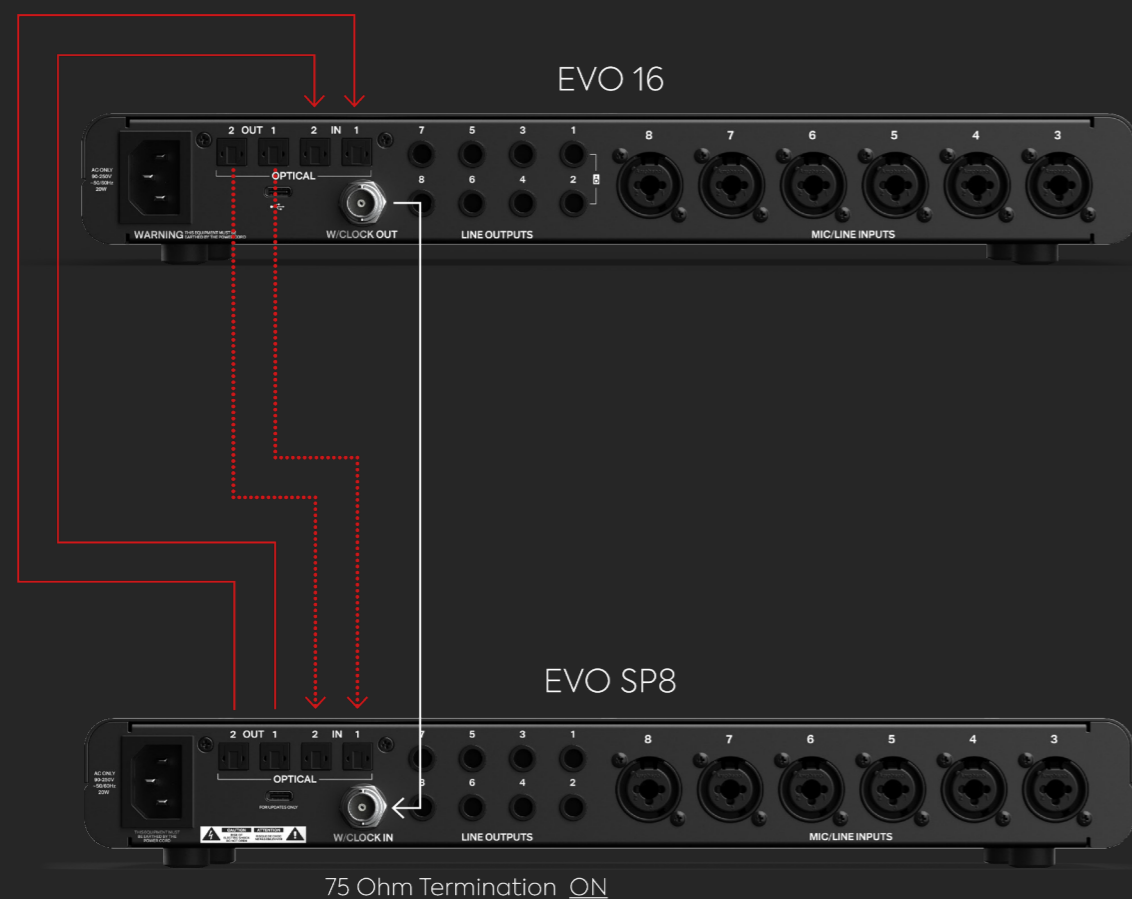
EVO SP8は、176.4または192kHzのサンプルレートはサポートしていません。

EVOの拡張システム

EVO 16と1台または2台のEVO SP8を使用すると、EVOの拡張システムを構築でき、この構成でのみ使える専用機能が利用できます。例えば、このシステムでは、最大24チャンネルにSmartgain機能が同時に使え、そのすべてを1つのユニットとして制御できる強力なプラットフォームを提供します。

EVO SP8とEVO 16を使用する

Key: Optical TOSlink Cable BNC Word Clock Cable

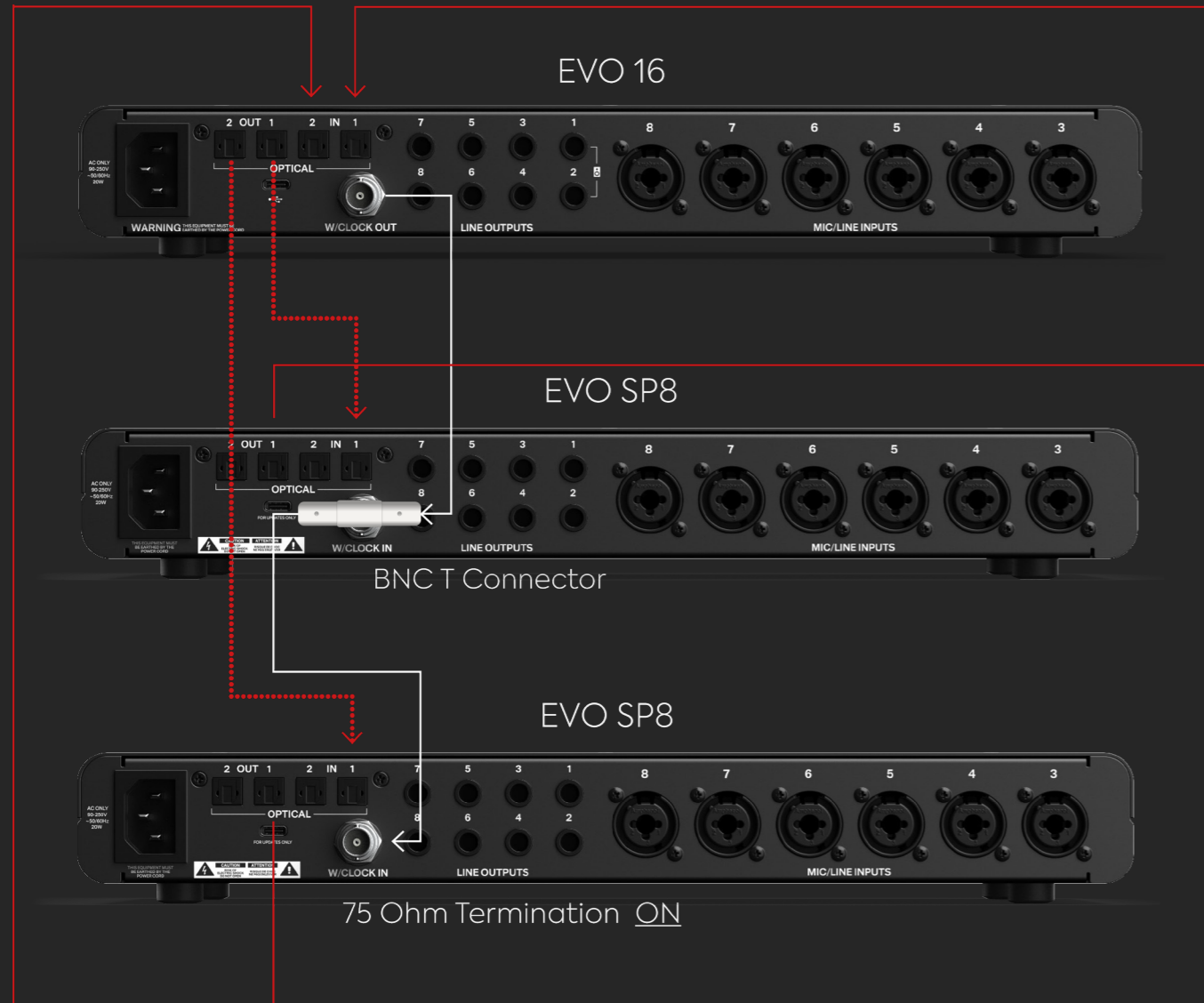


1. 2本のTOSlinkケーブルを使用して、EVO 16のオプティカル出力からEVO SP8のオプティカル入力に接続します。
2. さらに2本のTOSlinkケーブルで、EVO 16のオプティカル入力をEVO SP8のオプティカル出力に接続します。
3. EVO 16のワードクロック出力をEVO SP8のワードクロック入力に接続します。
4. EVO SP8のセットアップメニューに入り、クロックソースが「Word Clock」に設定され、「Word Clock Termination」がオンになっていることを確認します。また、サンプルレートを「Auto」に設定します。
5. EVO 16上のEVOミキサーアプリケーションにあるシステムパネルでクロックソースが「Internal」に設定され、オプティカルフォーマットが「ADAT」に設定されていることを確認します。

2台のEVO SP8とEVO 16を使用する

2台のEVO SP8とEVO 16と一緒に使用すると、1つのユニットで最大24チャンネルにスマートゲイン機能が使用でき、全てをコントロールできる強力なプラットフォームが提供されます。

Key: Optical TOSlink Cable BNC Word Clock Cable



1. EVO 16のオプティカル出力1を1台目のEVO SP8のオプティカル入力1に接続し、EVO 16のオプティカル出力2を2台目のEVO SP8のオプティカル入力1に接続します。このセットアップは、2本のTOSlinkケーブルが必要です。
2. さらに、もう2本のTOSlinkケーブルを使用して、同様にEVO 16のオプティカル入力をEVO SP8のオプティカル出力に接続します。
3. BNC Tコネクタを1台目のEVO SP8のワードクロック入力に接続し、バレルを回転させて本体にロックします。
4. EVO 16のワードクロック出力からBNCワードクロックケーブルをTコネクタの一方に接続します。
5. その反対側から2台目のEVO SP8のワードクロック入力にワードクロックケーブルで接続します。
6. セットアップメニューから2台のEVO SP8のクロックソースを「WordClock」に設定します。1台目のEVO SP8は「Word Clock Termination」を「オフ」に、2台目のEVO SP8では「オン」に設定します。また、両方ともサンプルレートを「Auto」に設定します。
7. EVO 16のEVOソフトウェアミキサーアプリのシステムパネルで、クロックソースを「Internal」に設定し、オプティカルフォーマットが「ADAT」に設定されていることを確認しましょう。

EVO SP8とADAT対応オーディオインターフェイスの使用

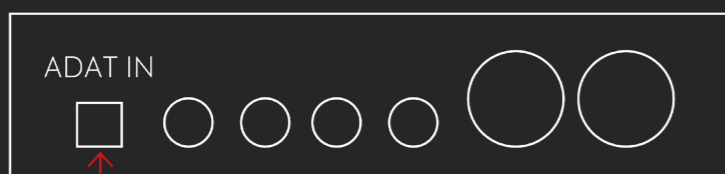
EVO SP8をプライマリークロックとして使用する

Audient iD14に搭載されているようなワードクロック出力がないホストインターフェイスを使用する場合は、EVO SP8をプライマリークロックとして使用します。

Key: Optical TOSlink Cable

1. EVO SP8のオプティカル出力からTOSlinkケーブルをホストインターフェイスのオプティカル入力へ接続します。
2. EVO SP8のセットアップメニューからクロックソースを「Internal」に設定します。
3. ホストインターフェイスが受けたADAT信号と同期するように設定されていることを確認します。例えば、Audient iDシリーズであれば、システムパネルでクロックソースを「DIG」に設定します。
4. 最後に、両方のデバイスが正しく同期できるように同じサンプルレートに設定されているか確認します。

ワードクロック非搭載のオーディオインターフェイス



EVO SP8をレプリカとして使用する

ホスト入力にワードクロック出力がある場合は、これをマスタークロックとして、EVO SP8をレプリカ（スレーブ）として使用できます。以下は、Audient iD44 MKIIと接続した場合の例です。

Key: Optical TOSlink Cable BNC Word Clock Cable

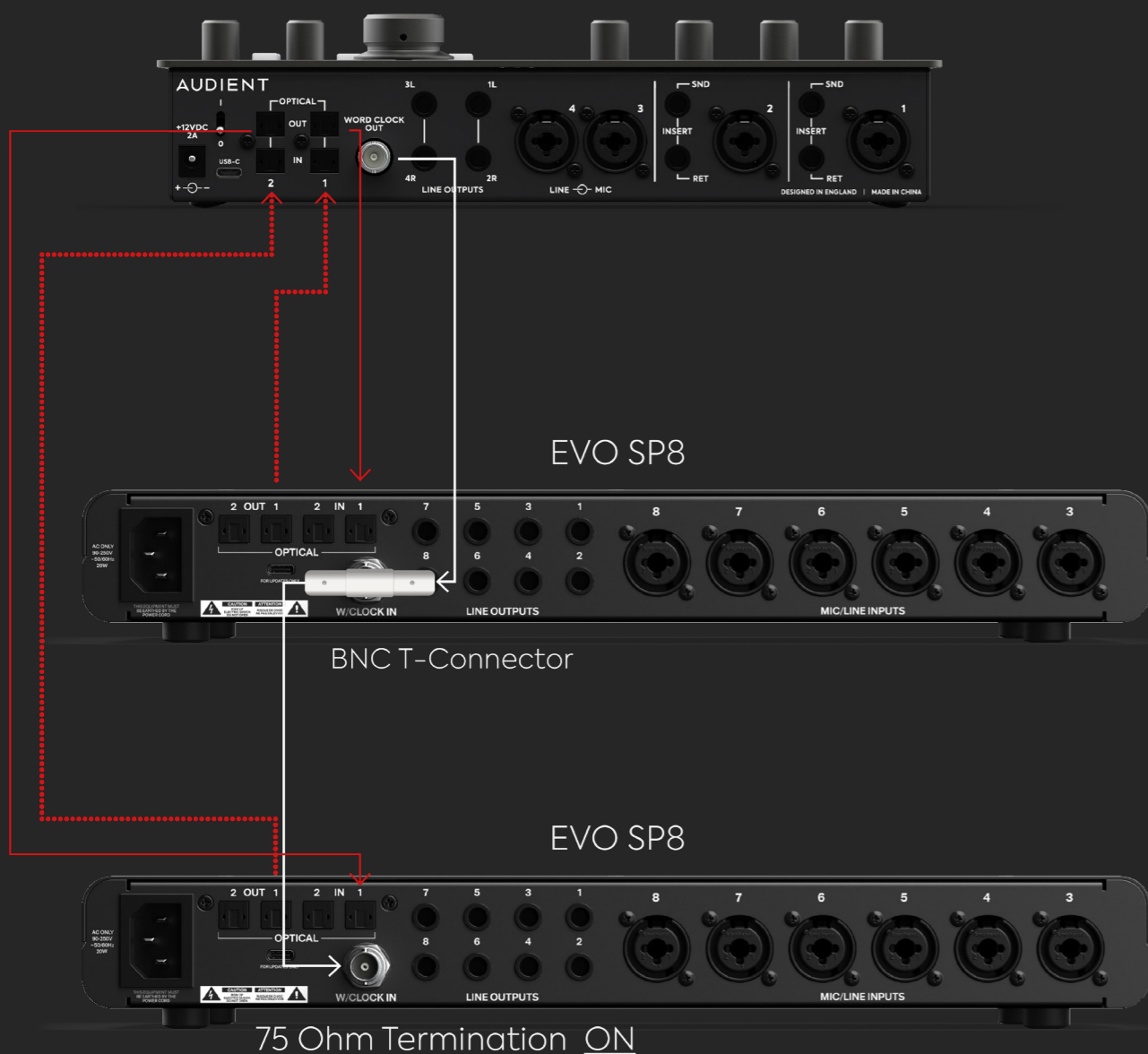


1. 2本のTOSlinkケーブルを使用して、ホストインターフェイスのオプティカル出力をEVO SP8のオプティカル入力に接続します。
2. もう2本のTOSlinkケーブルを使用して、ホストインターフェイスのオプティカル入力をEVO SP8のオプティカル出力に接続します。
3. ホストインターフェイスのワードクロック出力をEVO SP8のワードクロック入力に接続します。
4. EVO SP8のセットアップメニューから、クロックソースが「Word Clock」に設定され、「Word Clock Termination」がオンになっていることを確認します。また、サンプルレートを「Auto」に設定します。
5. ホストインターフェイスで、クロックソースが「Internal」に設定され、オプティカルフォーマットが「ADAT」に設定されていることを確認します。

ホストインターフェイスに1つのオプティカル端子しかない場合は、接続に1本のTOSlinkケーブルしか使用できません。これにより、サンプルレートが88.2kHzと96kHz の場合は、チャンネル数は4チャンネルに限定されます。

2台のEVO SP8をレプリカ (スレーブ) として使用する

Key: Optical TOSlink Cable BNC Word Clock Cable



1. ホストインターフェイスのオプティカル出力1を1台目のEVO SP8のオプティカル入力1に接続し、ホストインターフェイスのオプティカル出力2を2台目のEVO SP8のオプティカル入力1に接続します。そのため2本のTOSlinkケーブルを使用します。
2. さらに2本のTOSlinkケーブルを使って、同様にホストインターフェイスのオプティカル出力1をEVO SP8のオプティカル出力に接続します。
3. BNC Tコネクタを1台目のEVO SP8のワードクロック入力に接続し、バレルを回転させて本体にロックします。
4. ホストインターフェイスのワードクロック出力からBNCワードクロックケーブルをTコネクタの一方に接続します。
5. その反対側から2台目のEVO SP8のワードクロック入力にワードクロックケーブルで接続します。
6. セットアップメニューから2台のEVO SP8のクロックソースを「WordClock」に設定します。1台目のEVO SP8は「Word Clock Termination」を「オフ」に、2台目のEVO SP8では「オン」に設定します。また、両方ともサンプルレートを「Auto」に設定します。
7. ホストインターフェイスで、クロックソースが「Internal」に設定されていることを確認しましょう。

EVO SP8のラックマウント

EVO SP8にはオプションのラック耳が用意されており、最寄りのAudientディーラーで購入できます。同梱のネジで本体の側面に取り付け可能です。

EVO SP8のラック耳キットには以下のものが含まれています。

- 4 x M4 ネジ
- 2 x EVO ラック耳



ラックマウント耳の取り付け方法

- 3mm六角レンチで前面近くの両サイドにある2本のネジを外します。
- ラック耳のネジ穴がEVO SP8の側面にある4つのネジ穴と重なるように配置します。
正しい位置については、上の図を参照してください
- 4 x M4 ネジを穴に挿入してしっかりと締めます。
- ドライバーを使用して、EVO SP8 の下部にあるゴム製の脚を取り外します。

*ラックへの取り付けには、3mm 六角レンチが必要です。

取り付け位置の注意

ラック内の上下に熱を発生する機材との隣接は避けて下さい。ADAコンバーターの故障の原因になります。マウントには通気の良い場所を選んでください。

ユニットの上下に少なくとも1つのラックユニットのスペースを空けることをお勧めします。

両側の通気孔が覆われていないことを確認してください。また、ラジエーター、ヒートレジスタ、ストーブ、その他アンプなど熱を発生するものの近くに設置しないでください。

ファームウェアのアップデート

機能の追加やバグ修正のために、ファームウェアのアップデートを行う場合があります。
定期的にファームウェアの更新状況をチェックすることをお勧めします。



SPECIFICATIONS

MICROPHONE PREAMPLIFIER:

マイクゲインレンジ:	58 dB
ラインゲインレンジ:	58dB with -10dB Pad
ファンタム電源:	48v +/-4v @ 10mA/Channel
CMRR (同相信号除去比):	>80dB @ 1kHz
最大入力レベル:	+16dBu
入力インピーダンス (Mic):	>3kΩ Balanced
入力インピーダンス (Line):	>10kΩ Balanced
周波数特性:	+/-0.5dB 10Hz to 40kHz
クロストーク:	<-105dBu @ 1kHz <-103 @ 10kHz
THD+N @ 0dBu (1kHz):	<0.0015%
SNR:	100dB
Mic EIN (等価入力雑音):	<-127.5dBu

XLR: Pin 2 (Hot), Pin 3 (Cold) & Pin 1 (Shield)

1/4"ジャック: TIP (Hot), RING (Cold) & SLEEVE (Shield)

D.Iゲインレンジ:	58dB
最大入力レベル:	+10dBu
入力インピーダンス:	500k
THD+N @ 0dBu (1kHz):	<0.1%
SNR:	100dB
周波数特性:	+/-0.5dB 10Hz to 20kHz
1/4"ジャック:	TIP (Hot) & SLEEVE (Shield)

ADコンバーター (アナログ to デジタル)

デジタルリファレンスレベル:	0dBFS = +10.5dBu
周波数特性:	+/-0.5dB 10Hz to Fs/2
クロストーク:	-125dBu @ 1kHz & 10kHz
THD+N @ -1dBFS (1kHz):	<0.001%
ダイナミックレンジ:	112.5dB A-Weighted

DAコンバーター (デジタル to アナログ)

最大出力レベル:	12dBu
デジタルリファレンスレベル:	0dBFS = +12dBu
出力インピーダンス:	<50Ω
周波数特性:	+/-0.5dB 10Hz to Fs/2
クロストーク:	<-110dBu @ 1kHz
THD+N @ -1dBFS (1kHz):	<0.006%
ダイナミックレンジ:	117dB A-weighted
1/4"ジャック:	TIP (Hot), RING (Cold) & SLEEVE (Shield)

安全上のご注意

- **説明書の確認** - 製品を操作する前に、必ず本注意事項と説明書をお読みください。
- **説明書の保管** - 安全および操作に関する説明書は、後で参照できるように大切に保管してください。
- **注意・警告の確認** - 取扱説明書に記載されているすべての注意・警告をご確認の上、従ってください。
- **指示の確認** - 操作および使用に関しては取扱説明書および本注意事項をご確認の上、従ってください。
- **クリーニング** - 製品をクリーニングする場合、事前にコンセントから電源プラグを抜いてください。液体クリーナーやエアゾール クリーナーは使用せず、乾いた布を使用してください。
- **アタッチメント** - 危険を起す可能性があるため、製品メーカーが推奨していないアタッチメントは使用しないでください。
- **水と湿気** - 製品を水回りで使用しないでください。風呂場、洗面台、台所やその他、湿気の多い場所での使用を避けてください。
- **付属品** - 製品を不安定なカート、スタンド、三脚、棚やテーブルの上に置かないでください。製品が落下してけがをする恐れがあり、製品に損傷を与える可能性があります。製品の設置については説明書を確認するか、メーカーが推奨する取り付けアクセサリを使用してください。
- **換気** - 製品に備えられたスロットや開口部は換気用で、製品から放熱するためのものです。これらの開口部を塞いだり覆ったりしないでください。ベッド、ソファ、じゅうたんなどの上で開口部がふさがれる置き方をしないでください。十分な換気が出来ない場合は、本棚やラックには設置せず、メーカーが推奨する指示に従って適切な場所に設置してください。
- **電源プラグ** - 電源プラグまたは電源接続器を外して電源が抜けるようにしておいてください。
- **電源** - この製品は、製品ラベルに表示されているタイプの電源でしか動作しません。アース線を備えた電源ソケットをコンセントに接続してください。電源の種類がわからない場合は、製品の販売店または地域の電力会社にお問い合わせください。
- **電源コードの保護** - 電源コードは安全な場所に設置してください。プラグのコード、コンセントや製品に接続している個所は、特に踏まれたり何かで挟まれたりしないように配線にご注意ください。
- **落雷** - 製品を守るために、落雷時や長時間使用しない場合には、雷や電圧変化による製品が損傷するのを防ぐため、コンセントからプラグを抜き、ケーブル類を取り外してください。
- **電線** - 屋外アンテナシステムは、頭上の電線やその他の電灯や電気回路の近く、またはそのような電線や電気回路に落ちる可能性がある場所に配置しないでください。屋外アンテナシステムを設置する場合は、電力線や回路に触れないよう特にご注意ください。
- **過負荷** - コンセント、延長コード、または一体型コンセントに許容量以上の負荷をかけないでください。火災や感電の危険があります。
- **発火** - 火のついたろうそくなど発火の恐れがあるものを製品の上に置かないでください。
- **異物や液体** - 液体などが製品の回路内にある危険な電圧個所に触れたり、部品をショートさせたりすると、火災や感電の原因となる可能性があります。異物や液体を製品内に入れないでください。
- **ヘッドフォン** - イヤフォンやヘッドフォンから大音量で音を聴き続けると、難聴の原因となる場合があります。
- **修理が必要な場合** - 以下の状況では、コンセントからこの製品のプラグを抜き、専門のサービス業者に修理を依頼してください。
 - 電源コードまたはプラグが損傷した場合。
 - 液体をこぼした、または製品に物を落として損傷させた場合。
 - 製品が雨水にさらされた場合。
 - 取扱説明書に従っても製品が正常に動作しない場合。※説明書に記載のない不適切な操作をすると、製品の故障につながります。製品を正常に動作させるためには、資格を持った技術者による大がかりな修理が必要になることもあります。
 - 製品が落下または破損した場合。
 - 製品の性能に明らかな変化が見られ、修理サービスが必要な場合。

安全上のご注意

- **部品交換** - 部品交換が必要な場合は、正規の部品を使用しているサービス業者にご依頼ください。非正規品の部品交換は、火災、感電、またはその他の危険につながる可能性がありますのでおやめください。
- **バッテリーの廃棄** - 使用済みバッテリーを廃棄する場合は、お住まいの国または地域、環境に関する公共機関の規定に従ってください。
- **安全確認** - 交換サービスや修理が完了したら、サービス業者に安全確認を依頼し、製品が安全かつ正常に動作することを確認してください。

WARNING - 警告



この三角形に雷の矢印があるマークは、本機の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このエクスクラメーションマークは、注意喚起シンボルです。取扱説明書などに、一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。



WARNING : SHOCK HAZARD - DO NOT OPEN
ATTENTION : RISQUE DE CHOC ELECTRIQUE-NE PAS OUVRIR

感電の恐れがあります。 ケースをあけないでください。

設置に関する注意

換気を保つために、本体の周囲は突起物を含めた外形寸法から、下に示す以上のスペースを確保してください。

左右のパネルから10 cm

リアパネルから10 cm

トップパネルから10 cm

ラジエーター、ヒートレジスター、ストーブ、その他の熱を発生する装置（アンプ等を含む）など熱源の近くに設置しないでください。

分極または接地タイプのプラグの安全にご注意ください。分極プラグには 2 つのブレードがあり、一方のブレードの幅が他方よりも広がっています。接地タイプのプラグには、2 つのブレードと1本の芯があります。幅広のブレードまたは芯は、安全確保のために搭載されています。付属のプラグがコンセントに合わない場合は、コンセント交換について専門家に相談してください。

FCC規制（北米地域の電波法）

この製品は、FCC規制のPart 15 に従ってテスト済みで、クラス Bのデジタルデバイス基準に準拠しています。この規制は、住宅へ設置することで発生する有害な干渉から守るために取り決められています。この製品は、無線周波数エネルギーを生成、使用、および放射する可能性があり、指示に従って設置および使用しない場合、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。また、ある一定の状況下において干渉が発生しないと保証されるものではありません。製品がラジオやテレビの受信に有害な干渉を引き起こしている場合、次のいずれかの方法で干渉を防ぐことを推奨します。*干渉の有無は機器の電源ON/OFFでご確認できます。

- 製品と干渉を受けているデバイスの距離をあげてください。
- 干渉を受けているデバイスが接続されている回路とは別回路のコンセントに製品を接続してください。
- 販売店または専門家に相談してください。
- この製品が準拠しているFCC 規定のPart 15 には以下2点の項目が含まれます。
 1. この製品は有害な干渉を引き起こさないこと
 2. この製品は、予期せぬ操作を引き起こす可能性のある干渉を含め、受信した干渉を受けること
- 感電を防ぐため、プラグにある幅広のブレードを幅広のスロットに合わせて、完全に奥まで差し込んでください。（幅広ブレードのプラグを使用する場合）
- アース線を備えた電気製品はアース対応の電源コンセントに接続してください。
- 主電源プラグは切断装置として機能するように、機器の使用中にいつでも抜き差しできる状態にしてください。電源から完全に切り離すには、電源プラグをコンセントから完全に切り離してください。
- タイプや規格を表すラベル類は、製品の背面または底面に貼付されています。

品質保証に関して

本機は、audient日本総代理店 オールアクセスインターナショナル株式会社が、購入後1年以内の品質保証を行っております。修理の際は、購入時の保証書（購入期日及び販売店捺印必須）を提示の上、ご購入の販売店に御依頼下さい。保証書の提示が無い場合、保証内であっても1年以内の保証の対象にはなりません。

本書に記載された文章、図版、作品は、全て「著作権」及び、それに付随する「著作隣接権」等の諸権利を保有しています。弊社では内容を理解することを目的とする使用方法のみを許諾しております。

■サービスについて このマニュアルに記載されていない操作や取り扱いは行わないで下さい。記載外の使用法で本機を使用されますと製品不良が発生する場合があります。必ず本書に基づいた使用方法で使用して下さい。

記載外の使用法による破損や修理は、保証期間中の機器であっても保証対象外になります。本体の取り扱いは慎重に行ってください。万が一、負傷された場合でも弊社では一切の責任を負いません。

修理が必要な場合は、購入先もしくは弊社へ（メールのみの対応です。）ご連絡下さい。

Web: www.allaccess.co.jp

Mail: audient@allaccess.co.jp

The logo features the word "eVO" in a large, white, lowercase sans-serif font. The letter "e" is stylized with a horizontal bar that extends to the left and then curves back to the right. Below "eVO", the word "AUDIENT" is written in a smaller, white, uppercase sans-serif font.